

京に残る陸軍遺跡

第16師団司令部庁舎の今

京都偕行会長

樋端 一雄 東幼48

京都偕行会は令和元年度の慰霊祭と総会（5月15日・京都護国神社）の後、有志による「京に残る陸軍遺跡」の見学を実施した。目標は京都深草に残る、かつての陸軍第16師団司令部庁舎である。戦後70数年の今、元庁舎は聖母女学院（学校法人）の本館に変わったが、威容は往時のまま。昨年春の「遺跡探訪」では、この元司令部庁舎の

の「京都偕行社」（ヌヴェール愛徳会修道院）見学を主体にしたから、元司令部庁舎は外観見学（内部見学は女学院の許可が必要）にとどまった。（京都偕行社と司令部庁舎の概要は「偕行」平成30年7月号で報告）



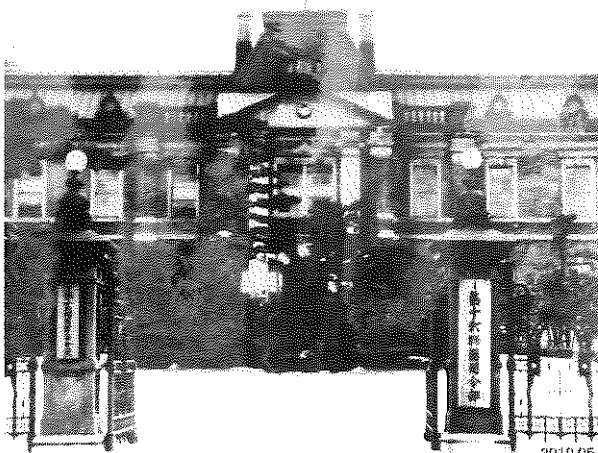
有志の京都偕行会を見学する司令部元師団

露戦争直後の明治41年（1908年）に、工期は僅か8カ月で完成したという。

日露戦争で師団を総動員した陸軍は本土残留用に4個師団を創設した。その一つがこの京都の第16師団で、京都、福知山、久居、奈良の各歩兵聯隊と、騎兵、野砲兵、工兵、輜重兵聯隊などで編成された。明治38年のことである。昭結していた。昭和9年まで師団は三度にわたり満洲駐劄。日中戦争では南京、武漢攻略戦に参戦する。昭和14年に復員するが、師団改編に伴い衛戍地

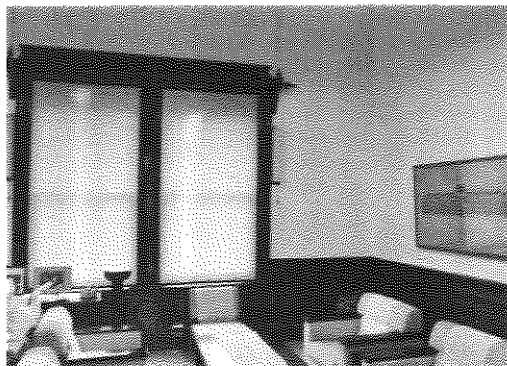
は満洲に変更された。大東亜戦争では緒戦のフィリピン攻略で活躍。しかし昭和19年のレイテ島決戦で米軍の猛攻に屈し、ついに第16師団は壊滅するという悲劇の結末を迎える。

第16師団の満洲永久駐屯に代わって京都で編成されたのが、留守第16師団を基幹とする歩兵中心の第53師団で、昭和18年に南方軍として派遣されたピルマ戦線で終戦を迎える。さらに京都出身青年らを中心に昭和18年編成の第62師団は、大陸打通作戦の後、沖縄に転用され、本島摩文仁（師団長自決）で戦闘を終える。また日中戦争勃発後



雪の日の師団司令部（昭和初期か）

の昭和13年には留守第16師団の担当で第116師団を編成した。歩兵大隊基幹の部隊で武漢作戦などに参戦した。東山の京都護国神社には、これら部隊の鎮魂慰霊碑が数多くある。



かつての師団長室（今は女学院理事長室）

◆ 女学院本館（師団司令部）内を歩く。南北に伸びる中央廊下の一部には創建当時からのリノリウム（床材）も残っている。廊下を挟んで左右に小部屋が続いている。本館中央の大階段から2階へ向かうと、正面が重厚な扉に守られた「師団長室」だが、現在は「女学院理事長室」になっていて、残念ながら見学は不能だった。歴代の師団長が

第16師団を総括指揮した由緒ある部屋 があった。

である。明治38年に始まる初代の山中 信儀中将から19代目の牧野四郎中将 (昭和20年8月レイテ島で自決) まで、 著名な將軍たちを迎えた歴史がここに

陸軍史からその名を拾うと②長岡外 史(日露戦争の大本営参謀次長)、⑥

梨本宮守正王(陸軍元帥)、⑧南次郎(陸 軍大臣、朝鮮総督)、⑩中島今朝吾(日

中戦争の南京攻略戦

に参加)、⑭石原莞爾

(関東軍参謀で満洲事 件を指揮)らである。

当時の師団長室の 西向きの窓からは練

兵場(明治41年に造成、 約35万坪といわれた)

をはじめとする「軍都 伏見」が一望できたそ

うである。その練兵場 は戦後、大学校舎や住

宅団地などに変容し てしまった。

因みに平成初期の 京都偕行会を統率し

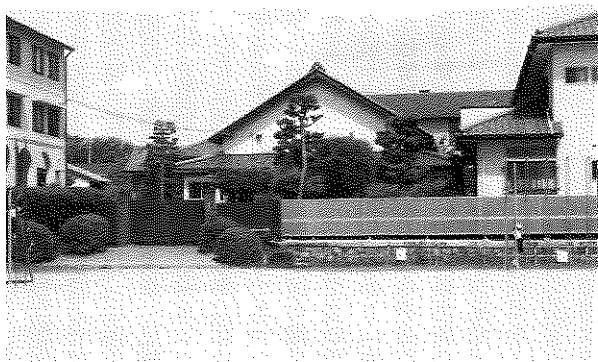
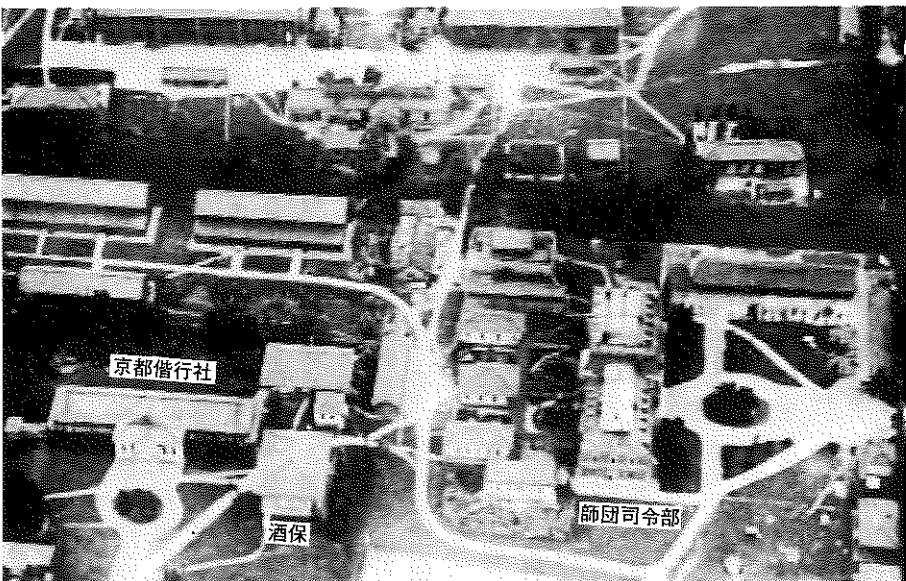
た故赤尾純蔵会長(陸 士42期)は、南京攻略 戦(昭和12年)で中島

師団長統率の第16師 団歩兵第9聯隊(京都)

の中隊長として最前 線へ。その体験から「南

京事件」は全くの誤り であると証言されて

いた。



元司令部東側のグラウンド、かつては厩舎などがあつた (前方に、かつての京都偕行社の建物が見える)

師団長室をはじめどの部屋にも、廊 下に出ることなく隣室へ通じる扉が設 けられているのも特徴の一つ。部屋ご とに造形が異なる立派なマンツルピー ス(暖炉)もあるが、いずれも正面に 菊花紋章の彫刻が施されていた。

西向きの正面玄関を出て、元司令部 庁舎(女学院本館)の外周を歩く。東

側は聖母女学院小学校の広い運動場と なっていた。本館サロンで見つけた見 学者用に展示している「戦前の師団司

令部の航空写真」によると、今は運動 場になっている元庁舎の東側には自動 車庫1棟と厩舎3棟が並び、さらに南

北に走る道路を越えようと師団酒保の建 物(老朽化で戦後に撤去)、その向こ

うに昨年見学した「京都偕行社」(現 在はキリスト教修道院)があつた。ま

た京都偕行社の庭の南側に兵舎3棟が 並んでいた。今はそこに女子大の校舎

が建っている。

かつて司令部庁舎の東を道路が南北 に走っていた。その道路あたりまでが、

女学院小学校の運動場である。春の陽 を浴びて「令和の子供たち」が元氣いっ

ぱいに走り回っていた。

聖母女学院本館(旧陸軍第16師団司 令部庁舎)の見学は予約制。聖母女学

院法人事務局(☎075-641-0 507)へ。聖母女学院へは京阪電車

藤森駅から東へ徒歩3分です。